

☆☆☆ 七色彩橋 ～広報文化センター便り～ 4月号 ☆☆☆

☆☆☆ 2009年3月27日(金) 第9号 総発行数5,000部 ☆☆☆

今月の都道府県紹介では、京都府商工労働観光部観光課の森脇友紀子さんに京都の魅力を語って頂きます。京都は、日本の歴史や文化が色濃く残っている場所ですので、是非行ってみたいと思っている方も多いのではないのでしょうか？今回はいつもとはちょっと違った楽しみ方を紹介してくれるということですので、京都へ行ったことのある方も要チェックですよ！

◆もくじ

- ト [1] センター新刊図書・雑誌等のご案内
- ト [2] 各都道府県の紹介【京都府】
～これまでとはひと味違う京都の楽しみ方～
- ト [3] 日本豆知識【桜の話】
- ト [4] 編集者の独り言

..... [1]

| ◆ | センター新刊図書・雑誌等のご案内

.....

★ 新刊雑誌：「アニメージュ」、「暮らしと健康」、「月刊日本語」、
「日経 TRENDY」、「non-no」、「MYOJO」

この他にも、書籍を中心に2000冊以上の日本語書籍や雑誌が閲覧可能です。

★新着CD:

- 「星に願いを (flumpool)」「Reincarnation (鈴木亜美)」「桜道 (九州男)」
- 「桜 (FUNKY MONKEY BABAYS)」「ランデヴー (YUKI)」「永遠 (Boa)」
- 「GOOD BYE MY SCHOOL DAYS (DREAMS COME TRUE)」「milk (aiko)」
- 「10年桜 (SKB48)」「STAIRS (RIP SLYME)」「乙女の祈り (真野恵理菜)」
- 「YOU ARE MY STAR (AI)」「Baby Come Close To Me (多和田えみ)」
- 「Promise You (福井舞)」「日和姫 (PUFFY)」「リバーズエッジ (二千花)」
- 「眠り姫 (Acid Black Cherry)」「Rule (浜崎あゆみ)」
- 「よっしゃあ漢唄 (角田信朗)」「Crazy For You (谷村奈南)」
- 「Sakura (シミオロメン)」「For You (lecca)」「バイバイ (大塚愛)」

「Morning sun (清竜人)」など

「……」 [2] _____
| ◆ | 各都道府県の紹介 [京都府] ~これまでとはひと味違う京都の楽しみ方~
「……」 _____

「京都」と聞いて、みなさん何を思い浮かべますか？ 清水寺・金閣寺等の神社
仏閣、芸舞妓・茶道等の伝統文化……。

今回は、京都府観光課がオススメする「これまでとはひと味違う京都の楽しみ
方」を紹介します。

<丹後>

京都府北部丹後地域。日本海に面した美しい海岸線を持つ地域で、日本三景・
天橋立、温泉、海鮮（蟹、ぶり、あわび、とり貝など）と豊富な観光資源に恵ま
れています。特に、日本でも伊根町でしか見られない「舟屋」（民家の1階が舟
のガレージ、2階が居住スペース）の町並は、満潮時には海に浮かんでいるよう
に見え、とても幻想的です。

<丹波>

京都府中部丹波地域。里山の暮らしが今も続く地域です。特にかやぶき民家が多
く残っている美山では、日本の農村の暮らしを体験できます。京野菜、地鶏、最
近人気の鹿肉など山の幸に恵まれた地域でもあります。

<山城>

京都府南部山城地域。石仏が点在するのどかな里・当尾、一休さんが晩年を過ご
した酬恩庵（一休寺）など歴史を感じるスポットが数多く残っています。日本の
高級茶の代名詞宇治茶のふるさとであり、平安時代（794年～1192年）の貴族
の別荘地であった宇治市は山城地域のハイライトです。

京都府の観光情報はこちらのホームページを御覧ください。

<http://www.pref.kyoto.jp/visitkyoto/chs/>

「……」 [3] _____
| ◆ | 日本豆知識 [桜の話]
「……」 _____

春と言えば、やっぱり桜！春になると、南から北へと徐々に「桜前線」が北上していきます。公園や学校、湖の畔など、各地に植えられた桜が空いっぱい咲く景色には、何度見ても感動してしまいます。今はちょうど東京の桜が満開の頃ですね。

では、どうして日本にはそんなに沢山の桜が植えられたのでしょうか？

桜の園芸品種は300種類以上あると言われていますが、日本の桜は、その80%以上がソメイヨシノ（染井吉野）という品種です。成長が早く、花を多くつけることから、園芸が盛んであった江戸時代末期に全国に広がりました。

桜にまつわる話は沢山ありますが、今回は八代将軍・徳川吉宗の話をご紹介します。

徳川吉宗は、江戸（現在の東京）に多くの桜を植えたことでも知られています。吉宗の故郷、紀州の「張保寺」に見事な桜があり、吉宗はこの桜を見て育ちました。その桜を偲んで、江戸のあちこちに桜の木を植えたと言われています。

また、吉宗は桜を中心に土手に木を植え、都市の緑化を促進し、環境整備を実行しました。さらに、それらの桜を見物する庶民のために、飲食店を作り、花見を奨励しました。当時人口密度の高かった江戸に桜を植えることで、江戸市民に憩いの場を提供したのです。

こうして、江戸では庶民の間で花見の習慣が浸透していきました。現在、東京で桜の名所とされる隅田川や飛鳥山は、当時吉宗が桜を植えた場所であり、今でも毎年多くの花見客が訪れます。憩いの場を作りたいという吉宗の試みは、大成功だったと言えるかもしれませんね。

江戸市民のために植えられた川縁いっぱいの桜、是非皆さんにもお見せしたいものです。でも、今年日本に桜を見に行けない方も諦めないでくださいね！今月当センターに入ったCDの中には、多くの桜をテーマとした曲が入っています。もしかしたら、これらの曲で少しでも日本の桜を感じてもらえるかもしれません。

「...」 [4]
| ◆ | 編集者の独り言
「...」

日本人が桜を愛でるのは、その咲き方、散り方が潔く、日本の武士文化と合っているからだ、とも言われます。ただ、満開の桜を見ていると、そんな理由は付けのもののよう気がしてなりません。春の透き通った空色に、桜の淡いピンク色・・・誰もが理由抜きで春の喜びを感じられるのではないのでしょうか。

でも私にはやっぱり「花よりだんご」かな?! 綺麗な景色と美味しいお弁当!
晴れた日には公園でランチしてみるのもいいかもしれないですね。

「…■発行元■…」 在上海日本国総領事館広報文化センター

〒200336 上海市延安西路 2201 号 国際貿易中心 302 室

開館時間：月～金 10:00～17:30 (土、日休館)

TEL：021-6219-5917 FAX：021-6219-5957

E-mail：shc10@cgj-shc.cn

Homepage：<http://www.shanghai.cn.emb-japan.go.jp/culture/index.html>

Copyright(c) 在上海日本国総領事館 掲載記事の無断転載を禁じます